

なると金時ブランド力拡大品種の育成

背景と課題

本県のサツマイモ「なると金時」は、鳴門市、徳島市、板野郡内において約1,000ha栽培されており、ブランド品目の1つとなっていますが、近年他産地の「べにはるか」に代表される高糖度品種の導入が進むとともに、安価な関東産「ベニアズマ」の浸透等もあり「なると金時」は厳しい状況にさらされています。このような中「なると金時」ブランドを維持・発展させるためには、外観・食味が優れた次世代品種の育成が必要です。

研究の目的

わが県独自の交雑育種と（国研）農研機構育成系統の本県での栽培適応性の評価を行い、本県砂地畑に適した良食味で多様な品種を開発しています。

研究の内容 および成果

1. (国研)農研機構育成系統による育種

(国研)農研機構育成系統の本県砂地畑での栽培適応性と立枯病抵抗性を評価し、砂地畑に適した良食味で立枯病に強い品種を育成しています。

2. 本県独自の交雑育種

☆1 「なると金時」を戻し交雑した県独自系統を多数保有

☆2 過去の育種データベースを活用した組合せを実施

☆3 立枯病抵抗性検定を行い、砂地畑への適応性を評価



新需要に向けて
育種素材も育成中



研究期間
令和2年度～令和4年度

研究課題名
なると金時ブランド力
拡大品種の育成

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
農産園芸研究課 野菜・花き担当
電話 088-674-1958